

## 弔 辞

古 門 雅 高

長崎県教育庁学芸文化課の古門でございます。

同僚といたしまして、故福田一志さんの霊前に、謹んでお別れの言葉を申し上げたいと思います。

福田さん あなたとお別れがこんなにも早く訪れようとは思ってもみませんでした。前日まで、あんなに元気でいらしたことを思えば、今でもあなたが亡くなったことが信じられません。私たちは今も呆然として、ただあなたの遺影を見つめるしかありません。

思えばあなたは、大人でありながら少年のように純粋な心をもった人でした。誰もがあなたを好ましく思い、誰もがあなたの前では素直になり、誰もがあなたを敬愛し、そして誰もがあなたの友人になりました。昨夜のお通夜にたくさんの、しかも色々な関係者の方々が参列したことでよくわかります。

人に警戒心を抱かせない不思議な魅力をもった人でした。

壇上に飾られた遺影はそんな福田さんらしさがよく写り込んだ写真ですね。

一方で、福田さんは、人知れず努力をする人でした。

大学で考古学を専攻したあなたの専門的な技術や能力の高さは、誰もが認めるところでした。特に石器の図面の正確さ、美しさは特筆すべきものでした。

過酷な発掘調査の現場をこなしながら、本県の教員採用試験のための勉強をされたこともありました。合格された後は長崎工業高校、上対馬高校で教鞭をとられましたが、本県の文化財行政の事情により、再び遺跡調査の仕事に戻られました。

壱岐の原の辻遺跡調査事務所に赴任された際には、連日夜遅くまで作業をされ、これまでの調査成果をまとめた大部の報告書を書き上げられました。それは現在行われている原の辻遺跡の整備に大いに活かされています。

さて、若い頃の福田さんは、やんちゃだったと聞いています。

私が初めて福田さんを知ったのは、もう30年以上も前の私が20代の頃です。長崎県立図書館の講堂で、ある遺跡の調査報告をした際に、聴衆のなかに福田さんがいました。好奇心に満ちたきらきらとした眼が印象的でよく覚えています。

福田さん あなたの若い頃の行動は今や伝説となっていますよ。

いつまでも思いはつきませんが、あなたが心のこりなのは、奥様やお母様、そしてまだ学生であるお二人のお子さんのことだと思います。われわれもできるかぎりの支援をする覚悟ですので、どうか安心してください。

福田さん、これまで本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成21年10月20日